



植木病院だより

Vol.12
平成20年2月

発行所

〒861-0136 熊本県鹿本郡植木町岩野285-29
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117

植木町国民健康保険 植木病院

発行人

鳥越 義継



■ 新年に寄せて

新しい年がスタートしました。秋の訪れも遅く暖冬傾向の日々でしたが、年末年始以来の寒波についつい地球温暖化の警鐘を忘れ暖房機を多用してしまいがちな毎日が続いています。異常気象といわれつつもしっかりと帳尻を合わせてくる所など、触まれつつあるとはいえ自然の底力をあらためて感じます。

医師不足を始め医療を取り巻く厳しい環境も雪解けは遠く、今年も課題山積の1年となりそうですが、地域医療を守るという我々の使命感には揺るぎはありません。

当院は急性期、慢性期の医療に加え、保健予防事業を通して地域医療に携わってきました。こと救急医療に限っても、年間救急車搬送546件、夜間・休日の時間外診療3110件（過去3年間平均）に対応してきたところですが、今年は保健予防事業にも更に力を注ぎ、4月から新たに「特定健診」事業に取り組みます。

この「特定健診」は国のメタボリックシンドローム対策の柱として、国民健康保険を運営する市区町村や企業の健康保険組合などに義務づけられるもので、メタボリックシンドローム及び予備軍の方を見つけるために行うものです。

該当者には「特定保健指導」が行われ、糖尿病等の生活習慣病の有病者や予備軍を平成27年度までに25%減少させることを目的としており、これに取り組むことは国保直診病院として当然の責務とも言えます。

植木町は平成15年度から「国保ヘルスアップモデル事業」に取り組みましたが今回もこの経験を踏まえ行政と協力しながら進めて行きたいと思えます。

医師不足のなかで何かと大変な面もありますが今年もスタッフ一同頑張っ地域医療を守っていききたいと思っています。宜しくご支援の程お願いいたします。

病院長 鳥越 義継

部 署 訪 問

今回は **薬局** を紹介します。

薬局は、薬剤を安全に管理し確実に供給する部署で、調剤・薬剤管理指導・医薬品情報の提供(DI)・高カロリー輸液(TPN)の調整の4業務を主軸に、現在薬剤師4名(内パート1名)にて以下の業務を行っています。

1. 調剤

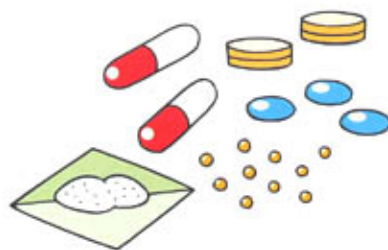
2名体制で処方・注射の調剤・監査を行い、実施箋(処方箋・注射箋と同内容)をつけて各病棟へあげ、病棟で更に看護師が監査する体制となっています。又、時間外使用のストック薬は、オーダーに従い実施箋をつけ各病棟に返納します。

2. 薬剤管理業務

毎月の指導目標件数を定め、外科系を2日/週、内科系を3日/週にあて1名が朝からこれにあたります。各科毎週1回のカンファレンスに参加し、医師・看護師・各コメディカルと患者情報の共有を図ります。午前11時からのTPN調整時には薬局に戻り、2名での調剤・監査業務ができる体制をとっています。

3. 医薬品情報の提供(DI)

当院DI業務マニュアルに従い、医薬品集・追補の作成、厚労省はじめ、メーカー等からの各情報の提供、問い合わせや患者持参薬の鑑別等。使用期限が迫ってきた薬剤の使用促進資料提供等、その他必要と考えられるものについてのアナウンスを1名が兼任で行っています。



4. 高カロリー輸液調整(TPN)

午前11時から1名が、当院の調整マニュアルに従い調整・記録し、平日は16:30~17:00に各病棟に上げるようにしています。休日は看護師が必要時、薬局冷蔵庫に取りに来る事になっています。

5. その他

- 毒薬・向精神薬・特定生物・ハイリスク薬については毎日朝夕2回のチェック。
- 毎日、ER時間外処方用カート(約100種)のチェックと配置。
- 各病棟・外来の薬剤の、使用期限・数量等のチェックを1回/2月行っています。
- 院外からの疑義照会等の問い合わせに対し薬局が一元的に受けています。

T O P I C S

自衛防災訓練が行われました。



植木町国民健康保険植木病院では、消防法により年二回の自衛防災訓練を行っています。

第一回は、新人研修のカリキュラムの中で消防訓練を盛り込み、5月頃に説明や防災に対するビデオなどで啓蒙を行い、最後に消火訓練を

行っています。

第二回は実践的な消火訓練を中心に実施しています。出火場所を想定し、模擬患者(職員)を各部屋に配置し、看護師と医師、警備員、消防署員が連携して、自衛防火訓練を行います。

訓練に参加した職員だけでなく、病院全体の防災意識を高めていきます。



大腸癌検診は受けていますか？

植木町国民健康保険植木病院 外科医長 高橋 将史

大腸癌は先進諸国に多く、生活の豊かさに関係するといわれています。日本でも、生活の欧米化とともに大腸癌が増加し、最近20年間で結腸癌は約3倍、直腸癌は約1.5倍に増加しています。世界的にみても、日本は大腸癌の発生率が最高レベルな国の一つです。

1999年度の日本での大腸癌新規患者は結腸癌で62,197人、直腸癌は32,295人で、男性は胃癌について2位、女性は乳癌について2位でした。また、男性に多く、年齢では50歳代から増加し始め、60歳代にピークがあります。

大腸癌の発生原因は？

遺伝性のもは5%以下と少なく、大部分の大腸癌は加齢や食生活などの環境因子により発生すると考えられています。様々な原因により大腸粘膜細胞の遺伝子はダメージを蓄積し、細胞の形質が変わってしまい、大腸線種や大腸癌に変化します。

日本で大腸癌が増えたのは、食事の欧米化による影響が大きいと考えられています。高蛋白食は、大腸粘膜の様々な発癌物質に対する感受性を高め、高脂肪食は、発癌作用のある2次胆汁酸を増加させます。更に低繊維食では、便がゆっくり腸内を通過するため、2次胆汁酸の影響を受け易くしてしまいます。

大腸癌予防の為に、高脂肪・高タンパク食を避け、ビタミンを摂取し、禁酒、禁煙を行う一方、運動により肥満を予防し、規則正しい排便習慣に気をつけた生活を送ることが重要です。

大腸癌の症状は？

早期大腸癌では、症状はほとんどありません。一方、進行癌になると出血や便通異常が現れます。また、癌のできた場所によっても症状が異なります。

右側大腸の方が管が大きく、通過する腸液も水分を多く含んだものである為、癌が大きくなるまで症状が出にくく、腹部のしこりとして触れる程大きくなって見つかることもあります。また、貧血の原因検査の結果、大腸癌からの出血であったということも少なくありません。

一方、左側大腸癌では管自体が右側よりも狭く、便も硬くなってきており、便秘や便の通過障害による腹痛、下血症状が初発症状となることが多くなります。

発見時に何らかの症状を訴えられる患者さんは40%程度で、症状のない方も多く、また、既に他の臓器に転移をしている高度進行大腸癌の患者さんも10～15%いらっしゃいます。

早期発見の方法は？

早期発見の為の検査は、便潜血反応と大腸内視鏡検査です。年間50万人以上が検診として便潜血検査を受けています。便潜血陽性患者のうち、1～2%に大腸癌が見つかります。大腸癌の30%は、便潜血反応陽性であった事をきっかけとして、検査を受けて見つかったものです。便潜血反応検査を毎年受けているだけで、大腸癌にかかって死ぬ危険性を60～70%も減少させると推計したデータもあります。

内視鏡的治療や腹腔鏡での手術、化学療法など、大腸癌の治療方法も日々進歩しています。しかし、やはり重要なのは早期発見、早期治療です。当院では、鎮痛剤や鎮静剤を用いて、苦痛の少ない検査を行っています。是非、定期的に検診を受けるようにしてください。

ご 外 来 案 か ら の 内 容

◆健診科

- ①人間ドック（オプション有ります。）
●日帰りコース ●通院2日コース ●1泊2日コース
- ②生活習慣病予防健診
- ③企業健診
- ④乳がん検診 触診とマンモグラフィ（町の助成金有り）
（お問い合わせは、国保植木病院
医事係 TEL096-273-2111内線101）

- ◆健康教室：3ヶ月に1回（5月・8月・11月・2月に実施予定）
内 容：講演会
場 所：国保植木病院 2階会議室

- ◆糖尿病教室：毎月第1・2・3木曜日 国保植木病院2階会議室
（お問い合わせは、国保植木病院 外来内科
TEL096-273-2111（内線140）

● 外来診療のご案内 ●

(平成19年7月1日現在)

診療科	曜日	午前	午後	診察室	月	火	水	木	金
内科		午前		第一診察室	勇	勇	勇	勇	勇
				第二診察室	山城	山城	山城	山城	
循環器科				循環器診察室	定永	非常勤医	定永	定永	定永
外科				外科診察室	鳥越	久米	鳥越	久米	高橋
整形外科				整形外科診察室	紫垣	紫垣	紫垣	紫垣	紫垣
脳神経外科				脳外科診察室				担当医	
肝炎外来		午後		脳外科診察室			合志		

- ※ 平日の午後及び土曜日は休診となります。
- ※ 脳神経外科は第2・第4木曜日の午前中のみです。
- ※ 当院では、再診予約制を取っております。
診察時に次回予約を行って下さい。
また、予約変更の電話については、午後をお願いします。

受付時間：平日 / 午前 8:30 ~ 午前 11:30
 診察日：月曜日 ~ 金曜日
 休診日：平日(月~金)の午後
 土曜日・日曜日及び祝祭日
 年末年始(12月29日から翌年1月3日)

※ただし、急患の方は、これに限らず対応致します。

地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」を平成14年12月に開設しましたので、ご活用下さいますようお願い申し上げます。

地域医療連携室

担当者：前田 由美

電話：TEL096-273-2111 (代表)

096-272-0854 (直通)

FAX096-272-0854 (直通)



交通アクセス



九州産交バス

「町立病院・かがやき館前」バス停下車
 熊本-山鹿線をご利用の方は、
 「五霊中学校前」バス停下車徒歩5分



乗用車

- ・熊本市中心部より30分
- ・山鹿市中心部より30分
- ・九州自動車道 植木インターから10分

編集後記

1年の世相を漢字1文字で表す2007年「今年の漢字」が12月12日、「偽」に決まり、清水寺の奥の院で、森清範買主(かんず)が、特注の和紙に揮毫(きこう)しました。
 発表は、日本漢字能力検定協会の公募では9万816通の応募の中18%が「偽」に集中したそうです。
 身近な土産物や老舗料亭、年金記録、政治資金、英会話学校、相撲などスポーツ選手まで次つぎと「偽」が発覚し何を信じたら良いのか分からない世の中になったという1年でした。
 ちなみに去年は、秋篠宮家の長男悠仁さま誕生やいじめ自殺、

虐待、飲酒運転事故などにより一つしかない命の重みとの理由で「命」でした。

06年、07年とどちらも暗い印象の事件から漢字が選ばれています。12月12日は、1(いい)2(じ)、1(いち)2(じ)から漢字の日となっています。2008年は偽りから信頼を回復し、漢字の日の語呂合わせ通りにいい字の応募が増えるような1年を望みます。また植木病院の基本方針に「安全医療の推進」が掲げてあり、患者さんに安心して安全な治療の提供に努力したいと思ひます。

福